

兵
庫
名
所
記

卷
之
下



兵庫名所記卷之下

一福巖寺

兵庫西の町にあり

巨勢山福巖大聖禪寺と号し用山佛打圓師

後醍醐天皇仁孝の御時御海路の時三々二回の新

物にあり小一宿皇居の不可

境門小自然居士智居のて井とわしじ水

かくして渴する事は今不遠寺の跡にあり

一福海寺

同不南にあり

大光山福海興圓禪寺と申用山在蒼雲有大和寺

尊釈迦運を作者の源ありて祝圓安氏のた

割りて此文のひる氏にありて海のた



はる藤の浦小集の二つあるは初藤藤二つ別々
御自筆の類を後又御孫の義満の山を乃顯の山
山号寺号あり性音は二丁西より伽藍の間に嘉永三年
中大災ついで敷宇訪合意ありありびを後今比尤小
後海に云

観音堂十二面大悲のびうたひきり諸傍ありて後とわひ集
はる藤ありび小多門天の梓沈なり是弘法大師の化身

一二本松 右寺より西田西のりの上の ぐりこ二

建良の足利馬政村寺陳所

一真福寺 兵庫西南の町のり

普賢寺の白栢の枝王妓女同基なる観世音あり則き

の府に佛小像なり一は寺より少南今大橋の三小川あり
運津川に川波のすおぬはは鬼畏く橋の流罪のさん
りぬるふさうて川とあり

一和川の松 右川の南にさうり京本あり

後徳の松あり

一松末をてりまの寺は合してはたをさるわははは松

松風の吹る巻入ひもてさうり松の松あり

一一遍上人の御廂 同所

西月山真実寺教依はり元祖一遍上人の石塔あり

同の寺迴雲の初心を二に年八月たさうむ比して

一の御年八十に又元は八百年の御年あり

一通上人の通津家名号二高寺にてひてはたしめ
元祖上人の後のるるべし小塔なり

當山後着住明天皇に御宇に惠尊法師入唐して宗

王小謁正帝大悲の尊像を賜ふ淨觀の一時示さん

船よりふ頃同去る来りて和州の成亮小なる時船とす

惠尊は是よりさらん悲有れば其縁りりてはゆふ高るた

安置と、多んぶつたんのを親音行り守り乃高る

在堂のた小のり時宗元祖上人と中興の同祖とす

高寺什物品とす

▲自畫の像 ▲人丸自畫像小塔家の讀款

▲業書名号 元祖上人の事以外は遺

兵庫名所記卷之下目録

- 一 福嚴寺 ○自然居士の井
- 一 福海寺
- 一 二本松
- 一 眞福寺 ○さうせ川
- 一 和田の笠松
- 一 一遍上人塔 ○眞光寺
- 一 八棟寺迹
- 一 清盛石塔
- 一 月見の湯所
- 一 渚沙の八江
- 一 魚乃御堂
- 一 薬仙寺 ○長谷観音
- 一 千僧寺跡
- 一 灯籠堂
- 一 和田のこころ 日海入江渡り
- 一 和田明神

大和田の浦

本間遠矢

延喜山

白ひの梅

源五塚

長田大明神 ○月里

蓮乃池

蓋後池

妙法寺

淀の橋

兵庫古城

内裏屋敷

真野の池 （徳福里）

龜盛塚

荻藻川

明泉寺

西代村 ○七ツ井

禪昌寺 ○鷹取山

二葉松

忠度塚

盗松

勝福寺

因幡薬師 ○稲葉山

磯馴松

鏡ヶ池

腰掛松

若木櫻

湊磨の関

一の谷

飛松

月見の寺

光源氏古迹

行平松

綱敷天神

湊磨寺

入湯の山

○いよき嶽 ○鏡ヶ峯

○安徳天皇御遷幸陣所

○鐘ヶ付松

○坂

一 上野

○二の谷 ○三の谷

鉢伏がらみ

○日の出

一 敦盛塔

一 須磨の浦

○二の江 ○三の江
○熊次

一 境川

一 山田の旧跡

ニケ石

一 兵庫十景此題

一 須磨の浦十景此題

一 福原観音札所名目

一 所々年積 上下後丁二記

一 兵庫の徳方通傳

一 龍見塚

真光寺の末代住持の伝記

但馬守平の経三河壽永一の吾合戦城の心算

一 清波石塔

一 合津海防六糸

一 一ノ宮

一 二ノ宮

一 三ノ宮

一 四ノ宮

一 五ノ宮

其言

十三重



弘安四年
九月



一八棟寺の迹
 天竺の法退將とて今もどかぬのし海防の地と世に永安
 年には寺とてまゝにありて一入亭新書小のり
 一法佛の入也 又次作 同不下
 一置の御所 又藤の世にまゝにありて小のり乃板屋と造
 後白河の法退將とて今もどかぬのし海防の地と世に永安
 年には寺とてまゝにありて一入亭新書小のり
 一置の御所 又藤の世にまゝにありて小のり乃板屋と造
 同不下
 同不下
 同不下



冠人皇女御持より天正年中に御印以異名
 としとらひていふ遺迹事也今更之

一 樂仙寺

傳如之塔より一町南

殿西三山と号ス天正二より山平年用山と名付天台派也

聖王天白王行基僧正に初まりて一統基りて後
 安二の年京於其山に上人將宗より改宗せり

觀音のりき海云傳基則和別長谷寺同所代り
 なり又高白に南愚自盡け施儀鬼乃捨其は乃宝物也

一千僧寺の跡

右寺の南今会原の二跡あり

萬年山より行基僧正の角基千人の傳せり
 亦因光天師の傳せり

かして弥江往... 善会... 一 千倍の南和回の原...
作帝... 神工... 善集...
一 灯... 堂

一 灯... 堂
千倍の南和回の原...

一 灯... 堂
千倍の南和回の原...

一 灯... 堂
千倍の南和回の原...

一 灯... 堂
千倍の南和回の原...

一 灯... 堂
千倍の南和回の原...

入る前
大政...

名... 入... 覚性

一 大和... 浦
和... 池...

夫... 月... 具氏
万... 子... 不...

一 和... 田... 明... 神
其... 治

年... 河... 流...

の... 毎... 社... 社

ひ... 其... 説...

一 兵... 庫... 左... 城

天... 郡... 有... 聖... 在... 蔵... の... 三... 物... 田...

正... 九... 帝... 正... あり

一本間

和心

建武年中申する氏はし、下りと條のこさお宿孫四郎重氏山
社田の流より招軍乃清航へを矢を射くををのしす

一 四裏

福原系

福原系郡安徳帝清経幸の四裏系一三四丁也方集地乃
迹あり和田の地を今水の子と云

一 延喜山

和田系

醍醐天皇の御時ありて流してのまゝくは所王殿乃地勢の
一 中

一 浦海

一 延喜山

浦海里待橋 昔年十丁余に東尻池村迄

五言 夫神の心は我を是るぬびて人の化をたむきもの 念

一 白梅

夫未 君らためまの里人うちむきてらわら高や方代のね 隆

一 通盛塚

松田系有一の谷合戦事山乃良大和越前三佐らり

三十日とて本村原に組討り

一 原

一 原

近江の國、作人、河入、聖章、とらりと、亦死

一、長田川、在傍、の、ぬ、さ、だ、の、小川、傍、あり

みづらの、重、傍、平家、ゆ、さ、り、傍、に、み、漆川、蒨、藻、川、新、ま、り

後、と、ま、の、池、と、在、り、よ、見、約、が、林、を、た、り、れ、一、板、屋、と、似、て

と、お、さ、す、く、ぬ、き、さ、し、て、傍、り、あり

一、長田大明神、は、も、川、は、さ、き、在、り、多、居、あり、山、額、道

風の、争、こ、る、ゆ、並、木、八、長、田、村、内、毎、の、八、月、十、八、日、奉、れ、ら

▲祭神一座、事代主尊、其社二座

神主大中に

神宝九穴ノ貝アリ

神功皇后伐新羅明年二月皇后之船廻於海中以不能進更還發古武庫水門而トス於是事

代主尊、誨、之、云、初、吾、于、御、心、長、田、國、則、以、葉、山

媛、妹、長、媛、今、祭、ラ

○木上天皇應和三年七月十五日於當社雨稱アリ

一、長岡屋

夫木、石、傍、も、め、く、は、ま、移、り、時、よ、あ、ひ、く、長、岡、の、中、に、お、か、り、也、兼仲

一、明泉寺

長田村、奥、天、照、山、と、申、大、日、女、尊、あり

一、の、谷、合、戦、の、こ、と、越、中、前、司、盛、俊、傳、お、又、以、遠、平、知、章、ノ

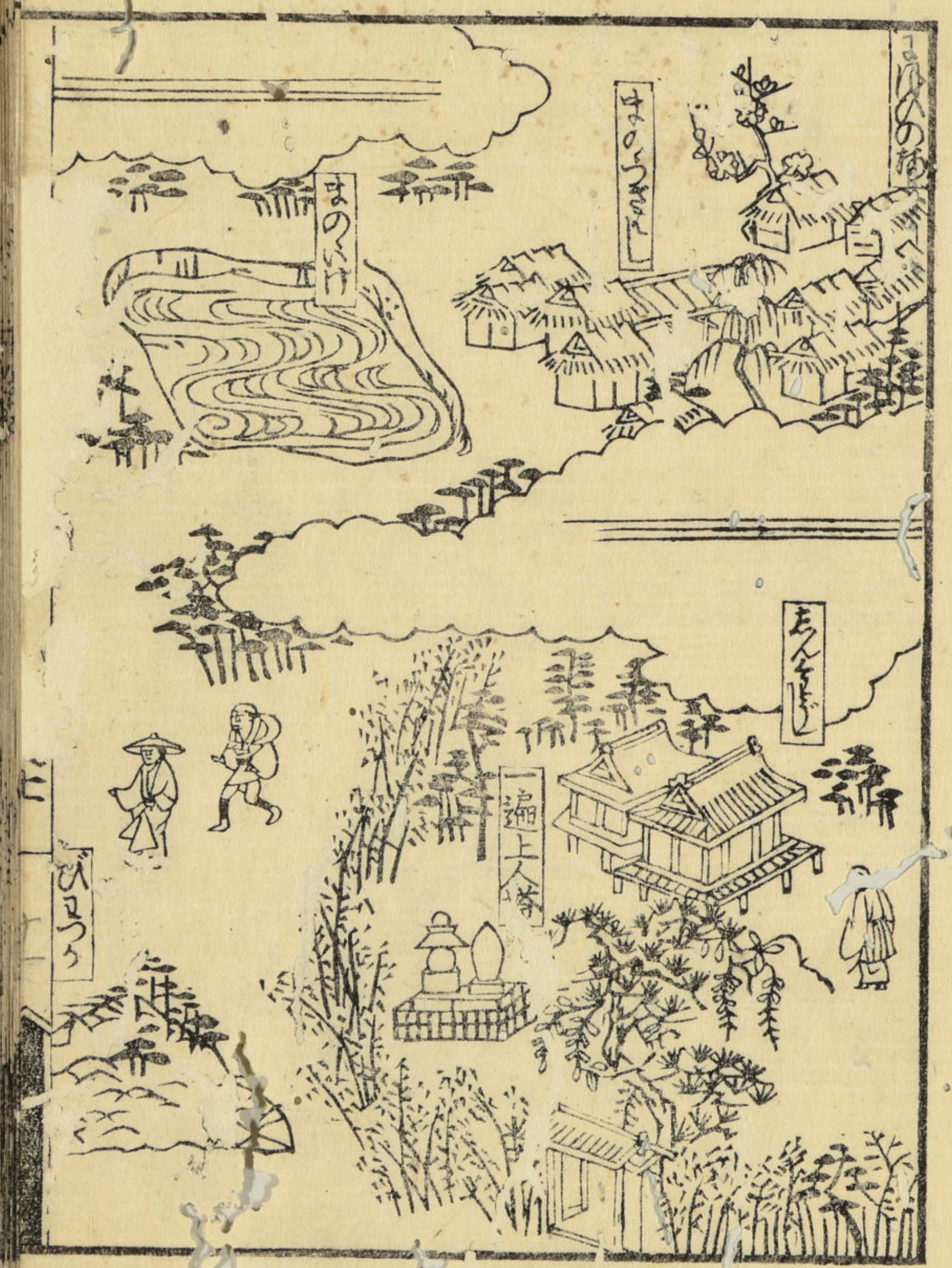
は、り、あり

一、蓮の池

か、は、も、川、の、つ、ま、り

は、池、は、基、は、り、天、守、守、中、る、ほ、く、世、の、農、業、早、魁、の、愁

を、ら、ら、い、か、この一説と云すへるが八功僅水と稱す



一 西代村
 一 盤後塚
 一 禪昌寺
 一 神持山
 一 御系河
 一 遍上人塔
 一 山月菴
 一 大和尚
 一 後光嚴院
 一 山豐

一 西代村
 一 盤後塚
 一 禪昌寺
 一 神持山
 一 御系河
 一 遍上人塔
 一 山月菴
 一 大和尚
 一 後光嚴院
 一 山豐



野跡を傳へし一も虎わくまへとの山を神在りし又喜され
 昔神功皇后三人歸船ありて是よりあり石在りて
 いふ山の上とてあまふ忽ち山とらふとて神在りしと云月菴和
 尚登山して暫くあるとてを根の勢源く冬に雪はらふ
 舟守居あまのきくく渡娘との程思ふにのみ其後和向六十
 四家とて康永元年己二月廿三日好化一より正續大祖禪師と
 贈号あり

一妙法寺
 言言わき山とて何處のまゆかた堂昆沙門天 大仏に
 十丁砂を城山にわく車がとりや矢拾休養ありあり
 一二番
 又原氏に云

釣の林オレド、さきよな、二筋余枝に方へいまり
はらよまきくあり

此の釣の林乃松れ、古来もさきよりあり

一 淀橋

夫の元より、今も此の地、さきよりあり

今言ふらめ、淀の地、さきよりあり、さきよりあり

淀、さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

一 忠度塔

さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

招の明石人丸堂のさきよりあり

一 盗之松

右の次、盗の村あり、さきよりあり

て今、さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

一 飛松

板倉村あり

菅原相は、さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

さきよりあり、さきよりあり、さきよりあり

うきまぬれは心だぞわたりてその松を極く君と今小
乃こせり

一勝福寺

西代村分又丁行りいたの上の松あり
野天待院の社こまかく大木村ノよまあり桂尾
山とリス一条の滝勅乳取申さる程こまあり春日の作用
えん理系上人の云也君宝ありありは小も牧深思
恭共子三彦は昨ホの筆おのく佛深く弘法大匠
所持の楊杖又昔度つきは供出の時陵十二
津々あり首八坊念ねまありしが今僅し

宝光院
象は坊

遍照院
標本坊

東林坊

一月見の松

兵庫より二里寺東次广利上山の松庭
松に身余ありの事仲細云丹見の辺也

○因幡系山 編系山 皆東次广あり

一ひく原氏ノ古迹 けりきぬらち

仁明天皇の孫子光原氏の君次广明石の景色よましま
爰小暫く暮秋を這りあふいたが山ませのさしこも

一破馴松

東次广のすぬ末村原辺すべの松を言
行平智は山浦のた迂のひ三と勢しこ海浴一の名浦
を暮の松の意は若松の方へをひくと云

後松 次广の湯屋より橋をさすね下枝も浪のうらな見れ

一行平の松あり といた今日後へ東次方下

中納言ありくらの行平にむす仲高備は祝儀ありし
極たまのひり本にむすりしと云々みひる余の
のけけりりと松風村あり跡も云々二人の侍士の言述ハ
是より一里山奥よりみ井の畑よりみ井の畑あり
み出せの地と云

○ 鏡の池
み井の畑村あり
行平

ゆひり松尾祝儀のよりみ井の畑村あり跡も云々二人の侍士の言述ハ
是より一里山奥よりみ井の畑よりみ井の畑あり
み出せの地と云

いとく後ひ地と云

一 網敷天神
ゆひり松の西

菱相公をいひし社あり葉葉は越さのふを記よい浦に
記とある漁者舟人饗をまけて遷れたる良しめ折目多浦
の景色を詠めあり時の人非傳と寫し繋て徳を云非
と抄す

一 腰掛松
次なるものを記かい及ぶまに今八種

次のまに廿三位平を後次なるの遠遠傳とて庄の末而
長小生描きとけ松は傳とて浦人酒を描きとけ
いまひとて也

ゆひり松の西

一 須磨寺

兵庫より一里余西の山にあり
上野山福祥寺と号し次々を觀音の開山圓後上人
平頂上人と号し天長の比和田の神乃海底公母を
光明かたてて碧天と照す結人志願悲願の撰人
の御願をわし與とて一つの檀木觀音の灵像を
ゆかり小宇に安置に其灵應あつたりしけ中納言
達と光孝天皇仁和二乙子圓後上人の御願して次
の御願して山よち後一けち奉割あつて天下安
念の御願所す其後久壽年中に源三位頼政
まに社をも奉心再興とて御願御奉平あり
又其後指大元玄豊臣秀頼に再興

○本寺の厨子ハ頼政寄附の遺りなり
樓門に金剛力士軍容又湛空父子相ともに彫刻あり

須磨寺灵宝ハ有之り(とて畧す)

▲喜葉の笹 弘法大師作 ▲高麗笛 祐孝僧作

歌 ぬきたふふあひて岸竹のよはひとと只ひとと

▲敦盛赤旗名号 法然上人作

同 引壽花 せまよりてぬで絶今跡施の運よととにせり

▲母衣納名号 甚正法師作

同 信の水 曇とぬでりまかくも心行を只の佛力

▲敦盛の幼少の時より歌二首 一月甲冑

庭松 中々も同じてはなるはせんあまはるる



松

編みかねよりとせの松して久しきとせ水の松

▲右木松制札

武彦坊系を等

任天永紅葉

時美江浦不意一校於折盜軍者

任天永紅葉一校者可剪一請

壽永三年二月日

今坊令十二字

一振壽院

一大聖院

一慈眼院

一東林院

一蓮寺院

一不動院

一華嚴院

一心光院

一楠本坊

一枚之坊

一安親坊

一东義坊

○漢竹松内より昔神功皇后新羅征伐のとき松を國
松浦川を鮎子釣の釣竿とせり松を釣るは釣



有とく家小記に枝系さう今と根不いん

一着本様 次なるのあま

むら源氏のあす海と長あ海飯小様ままりと海

氏の世よいつらあまあれさうわのうに世とめく

中りま見うらうくとら

「橋」れああ世のあま方格くす世世のあま

一後山 日よ乃山あり

月あうほのいさく膝く波さの席まうる浦地

青 国の人あひひしとけあの席のほのふた後行

鎮寺の風景

十三

定家

為

海に渡るありの谷を我場のなり磯水の流
を一里余坂湯境と去り十里余は海に
鴨越の山はと峨くうへ一峰とあり南海に
路は海客の浦を新波合まんとし海に
又遠く九条ありは波の無き平らなる
平地に西と東とを渡りて海に
かのうへへ一壺の昔をかりぬるの志とて
わくく又用くあるの様は海客の志と
一本は書もふくせぬるの志と

一 浪の宮屋 浪まある湯境は海客の志と
おれ けりぬるの志とすく人やゆもむとすく海客の志と

○ 鴨越の道よりいふ海客の志とすく海客の志と
山の谷海客の志とすく海客の志と
俗に云く海客の志とすく海客の志と
遠くは海客の志とすく海客の志と

一一の谷 浪境よりありあり
山の長さより十餘様式拾りるさす十間た母は波あり
凡一丁余二の谷よりあり二丁四十尺
一 寛徳天皇御遷幸陣所
享永三年平家一の谷を海客の志とすく海客の志と
一 寺持松亦三方に方とすの志とすく海客の志と

合又二谷二谷のるよ法勢陣屋の迹のりい此の流一
 上流と云

二谷の七三三余よ二八るる二九る谷は打
 余一谷二谷のる二二四する餘は乃小 浪落 出散
 浪起あり

三の谷と二二余換十九る九る谷は分浪打きし
 する余二の谷と三の谷とるる式す

一 敷島路 三の谷の河代還比が上て

太夫平敷島路 寄水三刻辰二月七日一の各落城の月終る
 次郎重實子討のいせ日十六奉空類珠精大居上





以石塔あり望の夷再集して是以之をすくむ
 高さ一丈一尺、堂石四尺四方あり
 ○又山塔の上は山泉あり井乃流あり

敦盛名塔

休

昔斯地有戰場名

流血染残嫩木櫻

須磨浦風散花夕

恰如熊谷打教盛

一鉢伏筆

三ノ谷の上といふ

昔神功白皇后夷敵と退治彼所ありて山崎に流る
 土着と集める小甲をわきまて伏名軍功と告れ
 一依て新伏乃筆と云 曾此盛と伏ふといふ
 一吹まの浦 昔居て一里中集東西溪今村

海に川が流るゝちの川あり

一載 又舟雨はたゞこれ無うの事り地は海に流すの浦人

中 白浪を多くと衣をかき流すをいふは海に人死

次への海泊をいふは海に人死をいふは海に

○ 隠以 次への海に云 ○ 撫原まの海

六帖 次への海に云 ○ 撫原まの海

万葉 次への海に云 ○ 撫原まの海

一境川 紙巻の二里

一境川 紙巻の二里

一境川 紙巻の二里

一境川 紙巻の二里

身も素も二のうけ先はあつそひはあ

○ 境川 紙巻の二里

美和三月辰巳二月七日の若合我年永河死の

とひ二月辰巳のうけ先はあつそひはあ

一 五らせの種通感 三十五

一 一ひりもの書法 十六

一 一ひりもの書法 十六

一 一ひりもの書法 十六

一 一ひりもの書法 十六

一 一ひりもの書法 十六

一 一ひりもの書法 十六

一 一ひりもの書法 十六

一 一ひりもの書法 十六

洲の心算の終りと寶永七年
 一 飯盛の皇后 三百年九月 一 某仙も 九百年九月
 一 飯盛の皇后 三百年九月 一 飯盛の皇后 三百年九月
 一 遍上人 三十六年成 一 遍上人 三十六年成
 一 同軍上人 三十六年成 一 同軍上人 三十六年成
 一 傳道公亮 三十六年成 一 傳道公亮 三十六年成
 一 同 三十六年成 一 同 三十六年成

矢田部郡丹生山田の庄跡ニケ耶 兵庫より山三聖山中

一 梅雨井 京野村栗花落氏の宅より

水の涌出は間長四尺余且三尺深さ三尺ばかりは水はしきゆれ
 じ梅雨に入ると必らず水口とて入梅乃日教と
 定心八月栗乃花の落るは梅雨の時節なるも入三聖天
 他り此を井姓とに始祖山田左衛門尉真勝八四十七代徳宗
 天の清宮朝廷よけりしに横萩右大臣豊成のついで
 女白洲井と恋倦くかくと云なり白たき一もの秘訣をかく
 15 中おひの妹

雲たてりおのめをたれおのめをたれおのめをたれ
 とよまをたれおのめをたれおのめをたれおのめをたれ

是より遠く、なほ得たりとせられまほしむるなりて。
三月乃稻むのそ勝れ、なほよの田小あはよ白藤の水
とせりあつりまを公成のまを彼心ぶしの勝らぬとと感
終は帝のよして白ひめとま勝るは送る帝よりま縁
は尹國乃御叔とせしめよま二尺寸其後白藤一男た
戸の内のあはりのぬ仲るにあり遺骸とせしこの東校
にゆかり細て叢祠とせし其天小犯ひまらつは地は水む
お今へゆへて梅を木銅む

一 鷲尾旧迹

下村

家記 桓成天皇の皇子葛原親王十四代庄濃は三良貞海
小名良津綱子始て鷲尾の姓とありまよはかひ男

久とりのの庄乃庄と号し山崗の庄は居候と源の多師の谷
戦場よひまきつまの難を越るまに茂久案内者よ應諾
して生年十七にたる一子をまふ是と鷲尾太良経春と云
大拍の評をありは縁系随ひ入高子の尊王と云
武久よ長具取と云ふ
一 太刀 一 振長二尺七寸 大系よひも他
一 一尺の丸
一 一尺の丸
一 武系坊長太刀 長四寸
一 一尺の丸
一 一尺の丸
右代、信守の太刀、八咫白秀吉の太刀

下之巻

下之巻

兵庫十景の題

扶桑名勝詩集出

熊梅早春

漆川清流

經島煉月

兵庫帰帆

福原旧都

引飛瀑

廣日神社

和田笠松

兵庫暮雪

生田晴嵐

須磨浦下景乃題日

若木櫻花

上野复州

関屋間月

兵庫飯帆

後山帰樵

兵庫晴雪

招屋暮煙

須磨寺鐘

一谷古戦

磯馴松風

不房三十三指観音札所

一 番 兵庫 茨仙寺

二 法立寺

三 海泉寺

四 野田村 慈眼菴

五 松源菴

六 松月菴

七 勝福寺

八 浄徳寺

九 福祥寺

十 福壽菴

十一 禅昌寺

十二 妙承寺

十一 石井村 福壽菴

十四 長福寺

十五 願成寺

十六 坂本村 福善寺

十七 東福寺

十八 極示寺

十九 龍泉寺

二十 福德寺

廿一 惠林寺

廿二 兵庫 神宮寺

廿三 西光寺

廿四 金光寺

廿五 法界寺

廿六 来迎寺

廿七 永福寺

廿八 福嚴寺

廿九 福海寺

三十 永福寺

世一 兵庫 福壽寺

世二 真福寺

世三 真光寺

所承元徳と云ふ所の方角の

一 寺のあり、	六丁	一 寺のあり、	二丁余	一 寺のあり、	三丁
一 寺のあり、	九丁	一 寺のあり、	二丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二丁余	一 寺のあり、	五丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	三丁	一 寺のあり、	六丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	四丁	一 寺のあり、	一丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	五丁	一 寺のあり、	二丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	六丁	一 寺のあり、	三丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	七丁	一 寺のあり、	四丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	八丁	一 寺のあり、	五丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	九丁	一 寺のあり、	六丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十丁	一 寺のあり、	七丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十一丁	一 寺のあり、	八丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十二丁	一 寺のあり、	九丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十三丁	一 寺のあり、	十丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十四丁	一 寺のあり、	十一丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十五丁	一 寺のあり、	十二丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十六丁	一 寺のあり、	十三丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十七丁	一 寺のあり、	十四丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十八丁	一 寺のあり、	十五丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	十九丁	一 寺のあり、	十六丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十丁	一 寺のあり、	十七丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十一丁	一 寺のあり、	十八丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十二丁	一 寺のあり、	十九丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十三丁	一 寺のあり、	二十丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十四丁	一 寺のあり、	二十一丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十五丁	一 寺のあり、	二十二丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十六丁	一 寺のあり、	二十三丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十七丁	一 寺のあり、	二十四丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十八丁	一 寺のあり、	二十五丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	二十九丁	一 寺のあり、	二十六丁	一 寺のあり、	七丁
一 寺のあり、	三十丁	一 寺のあり、	二十七丁	一 寺のあり、	七丁

三 福原の都 跡兵庫の前後の名高古
 述ある所古と世知る、所々、
 素業月と云ふは、
 志の意、近世國花萬葉集、
 行進、
 評、
 訛謬、
 在、
 作、

寶永七庚寅八月良且

撰州兵庫津

菊屋新右衛門

